
総合計画策定の 前提・大切な視点

少子高齢化や人口減少、環境問題などからくる
複雑な社会課題、テクノロジーの急速な発展など
これまでとは社会構造が大きく変わってきています。

今までと同じ方法や考え方だけでは
現状の維持すらも難しい時代が既に訪れています。

これまでに実施した、まちづくり 100 人協働ワークショップ や
市民意識調査、地域懇談会などの声の分析、世の中の動向を
広く収集することで、総合計画策定にあたっての
「前提・大切な視点」を言語化することとしました。

総合計画策定の前提・大切な視点

01



未来は創るもの・構造変化に対応する新スタイルへの移行

- 人口減少をチャンスととらえる
- 「柔軟性」×「スピード」
- 「チャレンジ」を応援する
- 「真剣さ」×「遊び心」による創造性

02



「ひと」が中心であること

- 主役は誰か？
- 未来づくり人材が育つ環境とは？

03



「つながり」のアップデート

- 真の協働とは？
- 目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰^{ふかん}し、好循環を生み出す
- 未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる

04



富良野らしいユニークさがあること

- 美しい風景・自然を 100 年後の未来に
- 先人たちの知恵・歩みをアップグレード
- 地球の住人として富良野がリードできること

未来は創るもの・構造変化に対応する新スタイルへの移行

人口減少をチャンスととらえる

少子高齢化により、国内全体および富良野においても人口減少が進む。担い手不足、一人当たりの行政サービス負担の増加、ハードの老朽化などが予想され、従来型の課題解決での限界が訪れている。「人口が少ないこと＝悪」ととらえず、創造的な動きやテクノロジーの活用により、成行きで後退してしまうことがないような転換が必要となる。「未来は、誰かが与えてくれるもの」から脱却し、「自ら目指し創る意識」のもと、新スタイルを確立していくことが重要。課題対応から「創り出す未来」へ。

「柔軟性」×「スピード」

先が読めずに、不確実で正解がない時代。やってみないと、何が確からしいかわからない時代。外部環境の変化もめまぐるしく、過去の成功体験や手法でうまくいかなくなっている。

まずやってみる機運を高め、安全な失敗を尊重する。やってみて、都度修正し、未来を創り出す。

「チャレンジ」を応援する

富良野にはチャレンジを応援する土壌がすでにある。これからの時代には、一つの答えを探るよりも、「コト」が起こる実際の動きが重要。一人ひとりのチャレンジを自然と応援できる寛容な環境を大切にする。

「真剣さ」×「遊び心」による創造性

真剣さの中に、遊び心や余白があることで創造性は生まれる。どうやって、時間や心の余白をつくるか、遊び心を取り込めるか。未来づくりを楽しもう。

「ひと」が中心であること

主役は誰か？

「より良い未来を」と願う一人ひとりの気持ちに寄り添っていく。富良野に住む一人ひとり及び、富良野に関わる一人ひとりが人生の「主人公」となることを応援する。どれだけテクノロジーやデジタルが進化する時代においても「ひと」が中心にあることを大切にする。

「未来づくり人材」が育つ環境とは？

変化の時代、構造が変わる時代において、自ら気づき、考え、行動を起こし、動きを修正し続けられる「ひと」が求められる。そのような人材が一人でも多く育つ環境そのものを皆で育む。

つながりのアップデート

03

真の協働とは？

「協働」が求められる社会背景を理解する。これまでも、行政と市民の関係を模索しながら歩んできた。
「何のための協働か」「あるべき協働の形とは何か」を探究し続け、「協働」のアップデートをはかる。

目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰（ふかん）し、好循環を生み出す

複雑な課題は、様々な要素と要素が繋がりあって、表面上見えにくい状況と重なり合って起こっている。一つの側面からの対処療法的なアプローチでは、本質的に解決に至らないことも多い。要素同士のつながりを大局的に明らかにし、ヒト・モノ・カネ・情報など、「好循環」を生み出すループのデザインを行なっていくことが求められる。

未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる

協働、好循環を生み出すためには、個人・組織・立場・住む場所・地域などの枠を越境し、つながりを創出していく必要がある。富良野に住む人、住んだことがある人、訪れたことがある人、来てみたいと思う人、興味を持っている人、まだ知らない人たちとのつながりに、未来づくりへの可能性を見出す。

富良野らしいユニークさがあること

04

美しい風景・自然を 100 年後の未来に

複数の山系に囲まれた 360 度のパノラマ、豊かな水系、農地が織りなす美しい景色、月ごとに表情を変える季節の奥行き。世界から「ひと」が集まる魅力、住む人が誇りに思える魅力が富良野にはある。住む人も訪れる人も、その豊かな恩恵を受けている。この美しい、あたりまえの環境を、「100 年後の未来／子供たちに今以上に美しくして残していく」姿勢を忘れない。

先人たちの知恵・歩みをアップグレード

先人たちから引き継ぐ「自然との共生」の知恵を最大限に活かし、「持続可能」な地域づくりをアップグレードしていく。

地球の住人として富良野がリードできること

自然との共生を前提としたさまざまな取り組みや環境がすでに富良野にはある。その環境に磨きをかけ続けながらも、富良野の枠を超えて、社会・世界に発信し、リードできる可能性をカタチにしていく。



総合計画の中身を見ていこう・・・。